

2025年度 事業計画

社会福祉法人 晴誉会

1、総論

社会福祉法人晴誉会の掲げる理念のもと、以下の各項目において方針に則った保育・教育活動、施設運営の実現を下記の計画のもと推進していく。

2、2025年度の動向

＜安定した運営を目指す＞

近年の物価高騰により、法人運営は難局に対峙しており、未だに安定とは程遠い状況にある。2025年度においても情勢と動向をつぶさに確認し、安定した運営を目指すこととしていく。

＜組織体制＞

組織体制としては大きな変更を計画していない。前年に継続して1法人2施設の体制の下、法人本部を含めた法人組織としての運営管理、組織体制の確立を課題としていく。

また、新たな施設運用の検討を始めたい。

両施設の提供するサービスの独自化を図り、必要な情報共有が欠けることのないように努めていく。

＜児童の受け入れについて＞

昨年度の運営状況を鑑み、2025年度も福祉提供を必要とする在宅家庭への支援として1号枠を活用していく。

今年度も両施設のキャパシティを活かした受け入れを実施していく。

＜職員体制＞

認定こども園制度における適正運営を鑑みながら、最低基準を満たすだけではない、余裕を持った職員の継続的な確保を目的とする。

＜人材育成＞

職員を確実に育成していくためにも中堅管理層（指導者層）および管理層の育成が課題である。今後も、職員の研修・育成体制の充実を図るために、またチュータ制度の一層の充実のためにも、外部講師による管理職層の研修を継続して実施していく。

今後も継続的に、各能力に応じた計画的な法人内人材育成を計画していく。

＜研修計画＞

随時実施していく。

＜積立金の目的内・目的外取崩について＞

さまざまな外因により、給食費/光熱水費/消耗品費など経費の高騰の影響がある。また、乳児児童数の鈍化、職員数の拡大による人件費の上昇がある。

今年度も施設運営状態への影響が懸念される。状況に応じ各種費積立金の取崩しに関して、これを選択肢の一つとして検討して行きたい。

<保育体制>

今後も晴誉会としての方針の共有を目指し、相互の意見交流と共有の場を設けて継続していく。法人設立時の理念を守りつつ、大型行事の再構築を実施して来たが、現代の保育リテラシーに合わせた行事として、今後も時流にあった改善とスリム化を検討していく。

<人事交流>

基本保育能力の向上をはかるとともに、両施設間の平準化をはかる。

3、施設運営・法人運営

<山手台保育園>

- ・ 地域の保育ニーズは鈍化傾向にある。2024 年度も かなり少ない 0 才児利用者での推移となった。その反省を踏まえ、当初園児数は定員数を勘案した状態での開始となる。
- ・ 両園での ICT 化の推進を行っている。そのためにはハードウェアの拡充が必須となり、固定資産への投資が多くなっている状況である。
- ・ 職員の確保による人件費の増加と、物価の高騰、老朽化に伴う修繕費の増加、各特別保育事業の実施によるコスト増加などの問題があり、懸念される。

<彩都保育園>

- ・ 2006 年度から建築 20 年近くを迎え、園舎全体に補修・改修が必要な箇所が散見されている。長期的な修繕計画の実施を検討している。

<法人>

- ・ 職員数が増加しており、また処遇の改善を継続しているため、人件費の増大が継続している。今後も計画的に対応していく。
- ・ 施設間の保育内容の確立化に努める。
- ・ 各種 ICT の技術を導入し、また従来からある経理ソフト、栄養管理ソフト、園児管理ソフト、運営管理ソフトの刷新および導入を進めていく。

4、保育を取り巻く環境

<茨木市行動計画>

特になし。

<職員処遇に関して>

継続して、職員処遇を向上していく。

<新子ども子育て制度>

「こども誰でも通園制度」については、両施設において検討を行っていく。

5、事業計画

<彩都保育園の償還計画に関して>

彩都保育園の建設資金の償還が行われている。継続的な資金計画が必要とされる。なお、彩都保育園に関しては 2008 年度より単年度黒字となっており、これを継続している。

<その他 購入/工事に関して>

2024 年 1 月からの NTT 西日本の IP 網への変更に伴い、電話交換機（PBX）の入れ替えを行う予定である。山手台保育園・彩都保育園ともに現在の設備が 10 年程度経過しており、また両園の光回線も更新が必要と考えている。また ICT の推進に伴い、館内インターネット環境も更新が必要である。

以上